

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO. 96 平成28年8月号

福岡アジア都市研究所は、  
福岡市を中心に産学官が協力  
して設立した研究機関です

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館 6階  
TEL : 092-733-5707 e-mail : library@urc.or.jp

タイトルバック：野性根氏撮影

目次

◆URC資料室ニュース

平成28年度 第2回ナレッジコミュニティ開催報告・・・1

◆URCニュース

①平成28年度 市民研究員受入事業開始・・・1

②平成28年度 第1回都市セミナー開催報告・・・2

③国際研修受け入れ報告・・・3

④福岡教育大学附属中学校の生徒さんが弊所を訪問・・・3

◆今月のおすすめ『東京飛ばしの地方創生』・・・4

◆URCメディア紹介情報・・・4

◆「資料速報 平成28年7月受入分」・・・別添

◆URC資料室ニュース

平成28年度 第2回URCナレッジコミュニティを開催しました。

福岡市を数値化してみたデータブック「FUKUOKA GROWTH 2016」で知ろう！福岡市の姿



URC ナレッジコミュニティは、福岡市のまちづくりや文化、コミュニティ、国際など幅広いテーマについて、講師の話

をもとに、参加者が相互に語り合う「知のコミュニティ」の場づくりを目指しています。

今回は、7月29日金曜日18:30~20:00、URC やデータブックを多くの方に知っていただくために、TSUTAYA BOOKSTORE TENJIN 3階のスター

トアップカフェに会場を移しました。

さまざまな福岡市のマーケットデータについて、「FUKUOKA GROWTH 2016」をもとに、同誌の調査、編集、発行を担当した URC 情報戦略室の島山尚久研究主査が、一部データを更新し、ご紹介いたしました。

後半は中島賢一調整係長がモデレーターを務め、「数値化したいデータ」についてグループワークを行いました。いろいろなアイデアを参加者のみなさまがおひ



とりおひとり付箋に書いて掲示し、共感を得た付箋にシールを貼るといった形で投票し、多くシールを集めた方から、数値化したい理由を解説していただきました。

会場は終始和気あいあいの雰囲気、多くの交流がなされていたようでした。

たくさんのご参加、運営へのご協力に心から御礼申し上げます。

ところで、みなさまが書いてくださった付箋は、当日の写真添えて資料室の入口近くに展示しています。ご興味のある方は是非ご覧ください。

写真出典：URC 撮影 (山崎三枝 司書)



◆URCニュース

①平成28年度 市民研究員受入事業を開始しました！

7月7日火曜日に、当研究所において、今年度の市民研究員委嘱状交付式並びに第1回定例会を実施しまし

た。今年度は、「さらなるグローバル化時代に向けての福岡市のまちづくり」という共通テーマを設定し、6人



の研究者が活動を行います。  
委嘱状交付式では、当研究所副理事長の中沢より、市民研究員一人ひとりに委嘱状が交付されました。研究員の

皆さんは、引き締まった面持ちで委嘱状を手にし、これから来年3月まで、約9か月間の活動のスタートを切られました。

委嘱状交付式のあと、引き続き第1回定例会を開催しました。研究員の皆さんが研究したい個別テーマを、それぞれ5分ほどで発表していただき、共有を図りました。

その後、岡田特別研究員による、各研究員のテーマに対する意見や、事務局から事業概要の説明、連絡事項等があり、第1回定例会が終了しました。

続いて第2回定例会は、7月27日水曜日に実施しました。

今回は、平成27年度の市民研究員の報告書を見て感じたこと、考えたことについて意見交換を行い、次に、岡田特別研究員から、「福岡市の経済社会の基礎知識」と題して、30分程度の講話を行いました。福岡市の特徴や成長要因、産業の現状などについて、統

計を用いたわかりやすい内容となりました。

講話の後は、各研究員が考えているテーマについてのディスカッションや、研究手法についてのアイデアを出し合う時間が設けられました。テーマが近い研究員同士で連携して研究を進めるといった議論が活発に行われ、たいへん有意義な時間になりました。

8月以降も、毎月2回定例会を実施し、11月には中間報告会を、3月には最終報告会を予定しています。

今後の活動については、資料室だよりや当研究所HP等で、随時報告していきます。



写真出典:URC 撮影(中島賢一 調整係長)

## ②平成28年度 第1回都市セミナー グローバルに成長し続ける都市『福岡』を開催しました。

7月14日木曜日13:30~16:30、福岡アジア美術館8階「あじびホール」にて平成28年度第1回都市セミナー「グローバルに成長し続ける都市『福岡』」を開催致しました。



まず、建築家の迫慶一郎様に「福岡のポテンシャルはどこにあるのか」と題した基調講演をして頂きました。

中国を中心に、手掛けられたプロジェクトの数々は、目

を見張るものでしたし、豊富な経験に裏打ちされたまちづくりのあり方、福岡の魅力と発展ポテンシャルなどについて、非常に有意義なお話を頂きました。

続いて、当研究所の久保上席主任研究員による総合研究「発展する都市／衰退する都市」の発表、福岡地域戦略推進協議会の取り組みについて清崎ディレクターより報告を行いました。

最後の会場との質疑応答においては、多くの方から手が挙がり、非常に有意義な意見交換の場となりました。

また、セミナー終了後も、名刺交換や情報交換が続き、参加者の皆様方の意識の高さを感じられました。

今回のセミナーは、告知開始直後に定員(100名)に達してしまっただけで、参加申込みを早々に締切らせて頂きました。今回参加できなかった方も第2回セミナーを、秋頃開催する予定ですので、次回をご期待頂ければと存じます。



写真出典:URC 撮影 (山本美香 主任研究員)

### ③国際研修受け入れ報告

#### その1 香港高等教育科技学院から視察研修を受け入れました。



7月25日月曜日から29日金曜日までの日程で香港高等教育科技学院(Thei)が日本から現代都市化の持続可能性を学ぶこと

をテーマに、福岡市のまちづくりの視察・研修を目的に来訪しました。Thei 視察団(Thei 景観デザイン学部学生8名、教員1名、景観・建築専門家3名)の来訪は、昨年引き続き2回目となります。

福岡アジア都市研究所(URC)で福岡市の景観政策と緑化政策について講義を受け、大濠公園や舞鶴公園、御供所地区やアイランドシティの中央公園、はばたき公園を視察し、特に、アイランドシティのCO2ゼロ街区の関心が高く『エネファームのような燃料電池と太陽光発電を利用した省エネ地域として開発していることが印象的だ』、『電線を埋めた景観が綺麗だ』といった感想が上がっていました。今回の視察研修が彼らの今後の活躍に役立つことを期待しています。



#### その2国連ハビタットナイロビ本部のアリウン(Dr. Alioune BADIANE)事業統括部長来福!

7月29日金曜日、国連ハビタットナイロビ本部のアリウン(Dr. Alioune BADIANE)事業統括部長の来福にあわせて福岡市の水道事業と環境事業(その中でも特に廃棄物処理)に関する視察・研修を実施しました。

アリウン氏は臨海工場、3Rセンター、西部中田埋立場、今津運動公園(元埋立場)、西部污水处理場、水管理センターの視察や環境政策に関する講義を通して、福岡市が有する技術やノウハウを高く評価されていました。特に、環境局長との会談では、母国のセネガルにも福岡市の環境政

策を導入したいと賞賛されました。今回の視察研修をきっかけとして、福岡市とセネガルのコラボ事業を期待しています。



写真出典：URC撮影 (李英雄 国際視察研修担当)

#### ④福岡教育大学附属中学校の生徒さんが弊所を訪問されました。

7月中旬、福岡教育大学附属中学校から三年生の生徒さん三名が、「総合的な学習の時間」の校外研究のため弊所を訪問されました。三名それぞれが事前の自己研究に基づいて、福岡市の都市計画について研究テーマを設定し、万全たる準備のもと、弊所の久保首席主任研究員と一時間に亘って熱い議論を交わしました。



三名は最初に、都市とは何かから始まる福岡市の都市計画についてのレクチャーを久保

主任から受け、当初の緊張が和らぐなか、各自の事前研究から生じた意見・疑問やレクチャーについての鋭い質問を矢継ぎ早に投げかけていました。

福岡市のコンパクトシティ計画や人材・資本を呼びこむための再開発計画、アジアを中心に世界中の諸都市との比較考量など、弊所の研究の核心に近いテーマに生徒の皆さんが興味を持たれていたことには感銘を受けました。その中で、今の若い世代からの新しい視点に気づかせてもらい、弊所としましても非常に有意義な意見交換となりました。

三名の表情・言葉からは、普段の学校の教室では感じ得ない刺激を受けた様子が見出され、このカリキュラムの意義深さを実感でき、弊所が関わらせて頂いたことは光栄でした。

聡明な生徒の皆さんの未来に幸あらんことを祈念いたします。

写真出典：URC撮影 (滝本一馬 研究スタッフ)

◆今月のおすすめ

## 『東京飛ばしの地方創生 ―事例で読み解くグローバル戦略』

山崎朗・久保隆行 著 時事通信社 8月9日発売予定

URC 企画委員の山崎朗中央大学教授と久保隆行上席主任研究員は、共著で『東京飛ばしの地方創生 ―事例で読み解くグローバル戦略』と題する書籍を出版されます。(8月9日発売予定)

人口減少が避けられない中で、地域需要や国内需要に依存していたのでは、地方はいずれ負の連鎖に陥り衰退は免れません。グローバル市場との結節こそが、今後の地方創生のカギとなります。そのためには、地方はグローバル化を受け容れ、自ら変貌していく必要があります。

本書では、豊富な事例を紹介・分析しながら、グロー

バル化による地方創生の方策を示しています。その一章に、福岡市をおおきく取り上げ、「グローバル創業・雇用特区」などの先進的な取り組みについて論じています。

入荷次第、当資料室にて公開しますので、是非ともご一読ください。

(山崎三枝 司書)

◆URC メディア紹介情報―最近1か月の情報を中心に―

## ◎新聞

(2016/7/23 日本海新聞 8p)

鳥取の未来創造 美術フォーラム 2016 どんな美術館が必要? 3会場でパネル討議  
市民研究員 OB 藤浩志さんが基調講演、パネル討議に登場する【倉吉会場】9月19日の開催予告

(2016/7/22 中国新聞 朝刊 27p)

中国新聞の主催行事 第63回広島県社会福祉夏期大学 8/22(月)午前10時30分から午後3時30分 中国新聞ビル

小川全夫特別研究員が、NPO 法人アジア・エイジング・ビジネスセンター理事長としてパネルディスカッションのコーディネーターを務め、対談に参加するイベントの開催予告

(2016/7/13 読売新聞 朝刊 35p)

赤ちゃんの化粧まわし展 山笠に合わせ  
市民研究員 OG 池田節子さんが同展へコメント

(2016/7/12 南日本新聞 朝刊 20p)

赤黄の対比、深緑に映え/湧水町の霧島アートの森、大型作品の補修進む

市民研究員 OB 藤浩志さんの作品が紹介される。

(2016/7/12 宮崎日日新聞 朝刊 11p)

九大 自動運転バス実験/18年度にも構内で実用化  
安浦寛人理事長が九大副学長として記者会見でコメント

(2016/7/9 佐賀新聞 24p)

九大で自動運転バス実験 18年度は構内実用化  
安浦寛人理事長が九大副学長として記者会見でコメント

(2016/7/7 西日本新聞 夕刊 9p)

福岡アジア都市研究所 都市セミナー開催予告記事

## ◎雑誌

(2016/7 GREEN AGE 38~40p)

<新連載>アジアランドスケープへの模索<1>カンボジア編(その1)アンコール遺跡群

市民研究員及び短期研究員 OB 増田元邦さんが執筆

(2016/7 九州マーケティングアイズ vol.78 22~24p)

アジアと九州の今 福岡は本当に国際化しているのか?  
URC OB 山本公平さんが執筆

(2016/7 愛知大学三遠南信地域連携研究センター紀要 第3号 18~26p)

福岡・釜山の超広域経済圏におけるグローバル創業予備人材の交流の実態に関する研究  
柳基憲研究主査が共著

## ◎テレビ

(2016/7/13 TNC テレビ西日本 ももち浜ストア 夕方版 18:30頃)

キニナットル! 福岡“美人の宝庫”のワケ

URC OG 山下永子さんが出演

(2016/6/9 TVQ「ハロー!福岡県」 21:54~21:58)

歴史的な環境を生かした取り組み~唐津街道姪浜まちづくり協議会~

URC OB 大塚政徳さんがレポーターを案内し、姪浜の魅力を紹介。

## ◎ラジオ

(2016/7 毎週金曜日 ローカルラジオ放送こみてん 18:00~18:25) スポガで Ready Bowl!!

市民研究員 OB 吉田勝さんがパーソナリティを務める。

## ◎Web

(2016/7/10 LOS ANGELES TIMES : 米国・ロサンゼルスタイムズ紙)

As Japan's population shrinks, bears and boars

roam where schools and shrines once thrived

和訳(仮):人口減少が進むにつれ、かつて人のいた学校や神社には熊や猪がうろついている。

(2016/7/12 洛杉矶时报) 同中国語版

日本人口急剧萎缩 曾经的庙堂和学校游荡着熊与野猪(图)

久保隆行上席主任研究員、唐寅主任研究員の発言が引用される。